

平成29年度 国立大学法人岩手大学大学院 入学式 告辞

工学研究科博士課程および連合農学研究科博士課程合わせて37名、並びに総合科学研究科285名、教育学研究科18名、合計340名の皆さん、大学院入学おめでとうございます。連合農学研究科構成校である帯広畜産大学、弘前大学、山形大学の先生方を含む教職員一同、皆さんを歓迎いたします。

また9カ国からの27名の留学生の皆さんも歓迎します。岩手大学での研究はもとより、日本での生活経験は皆さんにとって大きな財産になるはずです。頑張ってください。

また、本日列席いただいておりますご家族の皆様にも、心よりお祝い申し上げますとともに、大学院進学にご理解を示してくださいましたことに、感謝申し上げます。

皆さんは国立大学に学ぶ学生として社会のリーダーとなることが期待されています。大学院に進学した目的は多様でしょうが、共通する目的はこれまでの勉学、研究をさらに深めようとする向学心、追求する志であると思います。

大学院は専門領域を深く究める専門深化にあることは論をまたないと考えますが、学部と大学院の役割は異なっており、学問としてのコアを固める学部、その基礎をベースに領域を広げるのが修士課程、そこで見つかった新たな課題を追求するのが博士課程であると私は考えています。狭い領域に限定された専門家として通用するのは過去の話で、今は広い領域を俯瞰できる専門家が求められており、複雑な社会システムをまとめ上げる力が求められています。

今年度より本学は、大学院修士課程を、従来の人文社会科学、工学、農学の各研究科を総合科学研究科4専攻とする大改組を行いました。そのコンセプトは復興と地域創生、イノベーション、グローバルです。専門深化に重点を置いた総合文化学、理工学、農学の各専攻と、学部横断的な教育研究に力点を置いた地域創生専攻です。昨年スタートした実践的教員の育成を主眼とする教職大学院を含め、修士課程の多様な教育プログラム、多様な人材養成を行うことは社会の要請に基づいたためであります。

私たちは皆さんとともに過去5年間、「オール岩大パワーを！」と復興推進活動を行ってきました。その活動の中で、復興には限定的な学問の枠を超えた総合的な取組が必要であることを実感しましたし、その経験あるいは成果を、大学として教育・研究プログラムに昇華させる責務があると考えました。結果として、皆さんと指導教員との共同作業でこれまでにない新たな研究アプローチ、学問領域を創造することができるはずであると考えております。特に、総合科学研究科の皆さんは一期生として将来の岩手大学を左右する大きな役割を持っていることを自覚してください。

私たちはこの岩手に住んでおりますが、この地域の最重要課題は地方創生です。これは大都市圏以外の日本全国の共通の課題であり、グローバルな課題でもあります。そのために必要なこと

は、「地域イノベーション」を起こすことであります。一次産業、二次産業のみならずサービス業の三次産業の分野においても新たな技術革新をベースとした地域の経済的活性化をもたらすことであり、しいては社会のシステム改革、人間の価値観の変化をももたらすことです。当然それを担う人材が必要であり、皆さんにそれを期待しております。

高度な専門家、研究者を目指す皆さんもいるでしょうし、コアとなる専門性を活用して世界を俯瞰し、様々な分野や組織の総合的なシステムを創造し管理運営する総合的な高度職業人を目指す人もいるでしょう。しかし目標に関わらず皆さんに求められる共通のポイントは独創性です。一本道をつき進めれば良いのですが、壁にあたった時には一度自分の世界から飛び出し、異分野の人との交流をしてください。岩手大学には様々なプロフェッショナルな研究者がいます。是非自分の研究室から飛び出して他の研究室を覗いてみてください。そこでは新たな発見ができるものです。研究の幅が広がるのです。そして独創性が生まれるのです。

リタイアしたシニア層を除けば、大学院時代が自分を見つめ直す自由な時間を持つことが出来る最後のチャンスです。この時間を有効に使うことも考えてみてください。自己への投資と考え1年でも留学してみることは将来の大きな財産になります。グローバルな人材育成を目標とする私たちは、グローバルな視点を持てるよう皆さんを積極的に支援します。

最後になりますが、研究の面白さを是非後輩に伝えてください。皆様の成長を期待して、学長からの告辞といたします。

平成29年4月7日

国立大学法人 岩手大学長 岩淵 明